

GUEST ATHLETE 東京、パリパラリンピック2大会でメダル獲得パラアスリート

小川仁士選手 車いすラグビー



小川仁士選手（東京都出身）モトクロス事故で頸髄を損傷し、20歳から競技を開始。

パラリンピックは2大会に出場し、東京2020で銅メダル、2024パリで金メダルを獲得に大きく貢献した。パワーとスピードに優れ、卓越したディフェンス力を武器とするローポインターとして活躍中。

PROFILE

小川選手のプロフィール

今回、皆さんの学校に訪問する、パラアスリート小川選手のプロフィールの一部をご紹介します。他にも聞いてみたいことがあつたら伊藤選手に質問してみよう！



普段の活動は？

競技用車いすに乗っての走り込みやチアスキルなどのトレーニング、ウェイトトレーニングを行っています！



競技との出会いは？

僕はモトクロスのレース中の事故で車いすになりました。リハビリ病院に入院中に、リハビリの一環として行ったのが車いすラグビーです！



好きものは？

釣り、モータースポーツ！釣りは堤防などで家族と楽しんでいます！怪我をする前からバイクや車やジェットスキーを乗っていて、怪我をした後も変わらず好きです！

HOW ABOUT

車いすバスケットボールってどんなスポーツ？

一番危険なパラスポーツ！？タックルOK！激しく戦うパラスポーツ！

車いすラグビーは、四肢に障害を持つ選手が専用車いすに乗り、激しい接触と高度な戦術で得点を競うパラスポーツです。1チーム4人でボールを運び、相手ゴールラインを越えると得点。スピード、パワー、チームワークが勝負の鍵となり、車いす同士がぶつかり合う迫力は圧巻です。障害の程度に応じたポイント制で公平性を保ち、多様な戦術が展開されます。1970年代にカナダで誕生し、現在はパラリンピックの正式種目として人気のスポーツ。



INTERVIEW**今回の授業で一緒に考えて欲しいこと****小川選手から考えてもらいたいメッセージを記載**

— 小川選手にとって障がいってどういうものだと思いますか？

「できない」と決めつけて何も行動を起こさないこと。

苦手なこと、難しいことがあっても、やり方や道具、人の手を借りることによって、「できない」が「できる」になる。

だから自分で可能性を塞ぎ込まないで欲しいし、周りの人も一緒に考えてほしいな！

— あなたは壁にぶつかった時にどう向き合いましたか？

実は考えの変化は特にありません。

障がいを障がいと感じないくらい、たくさんのことについてチャレンジできるし「どうすればできるかな？」と考える楽しみも増えました！

— 今回の授業をきっかけにみんなに考えてもらいたいとこはありますか？

チャレンジする大切さ、成長の先に成功があることを忘れないでほしい。

障がいって体の障がいだけじゃなくて、乗り越えたい壁もあるよね。だから僕の場合はどうやってチャレンジしたか感じてほしいし、みんなの人生にも置き変えてみてください！

皆さんもこの機会に、“あなたにとっての障がい（壁）”って何か考えてみよう！

きっと正解はこれからみんなが生活していく中で見つかるものかもしれませんね

NOTICE**小川仁士選手の活動をもっと知ってみよう！**

授業だけで小川選手の事を知ることができなかったみなさんはこちらもチェック！

もっと選手のことを知りたい方は、活動の様子やインタビュー記事をぜひチェックしてみてください！センターpoleの公式サイトでは、パラアスリートたちのプロフィールや競技への思い、イベント情報などを掲載中。さらに、選手本人のSNSでは、日々のトレーニングや試合の舞台裏など、リアルな姿が発信されています。応援の一步を踏み出そう！

**REQUEST****ぜひアンケートにご参加ください**

パラスポーツで社会をもっとポジティブに！皆さんのご意見をお聞かせください。

私たちセンターpoleはパラアスリートと一緒にパラスポーツでみんながスポーツを楽しめる社会を目指しています！今回の授業に参加して「こんな制度があつたらいいな」「こんな話が印象に残った」など、あなたの意見をぜひ聞かせてください！

■回答方法 画像のQRコード「アンケートフォーム」から

■回答締切 2026年3月末まで

■対象 交流授業にご参加いただいた企業、教員、保護者の皆様

アンケートフォーム ➞

